

【ご案内】新情報システム学体系化研究講演会・第8回の報告

2017年3月21日

情報システム学体系調査研究委員会

- ◆日程： 2月25日（土）13時30分～16時
- ◆場所： 専修大学神田校舎 5号館 4階 542教室
住所：〒101-8425 東京都千代田区神田神保町3-8

- ◆テーマ：人間中心の情報システムを目指して：
新しい開発方法論、プロジェクト体制の在り方の研究事例
- ◆講師：同志社大学理工学部 教授：金田重郎様、講師：井田明男様
- ◆参加者数：11名

◆研究講演概要

当情報システム学会では人間中心の新情報システム学体系の確立に向け、既刊の序説を踏まえて、本論編を調査研究中であります。

第8回講演会では情報システム学体系の中で、第2部のエンジニアリングの分野の研究事例と位置付けられる以下の構成内容を同志社大学の金田様、井田様にご発表、講演頂きました。

（1）開発方式の適切な選択と効果についての研究事例

- ・研究論文：「存在従属グラフから RESTful Web サービスの生成」

（同志社大学理工学部 講師井田明男様）

※第12回研究発表大会 ベスト論文賞受賞

エンティティの存在従属分析の紹介から、その適用の例題、そして、存在従属グラフからリレーショナルモデルの構築、ユースケース記述の構築、そして開発プロセス、Webサービスの生成まで、詳細のご紹介を頂きました。本研究内容は本質的に優れた開発方法論の在り方を示唆する具体的な事例として、大変、参考になる研究事例でありました。

（2）プロジェクト体制と役割における課題と対応策についての研究事例

- ・研究論文：「多階層受託開発体制とソフトウェア技術者に求められるもの—企業ヒアリング結果の分析から—

（同志社大学理工学部 金田重郎様）

- ・研究論文：情報の流れの変化と施主の意識変革の関係

—実社会連携 PBL を例として—

（同志社大学理工学部 金田重郎様）

一つ目の研究論文では、システム開発におけるSEが顧客企業側内部の業務主幹者と対等な立場で活躍できる体制をつくること、或いは、顧客企業への業務変革の視点での提供価値を評価してゆく必要性を提案頂きました。

また、二つ目の論文では医師による顧客の再来院率の向上を図った事例で、施主の情報行動の変革を促す仕掛けづくりを紹介頂きました。

いずれも近年のシステム開発における課題となっている点に焦点を当ててその解決に取り組んだ具体的事例で、大変、参考になりました。

今回の発表研究事例を今後、新情報システム学本論への参考にして参ります。なお、当日は参加者の皆様からの質問や討議の時間を十分取れませんでした。ご発表の資料を公開致しますので、ご参照頂ければ幸いです。

◆説明資料

- ・ 体系化研究講演会第8回 20170225 資料1
- ・ 体系化研究講演会第8回 20170225 資料2
- ・ 体系化研究講演会第8回 20170225 資料3

◆問合せ先

<新情報システム学体系調査研究委員会事務局：渋谷照夫>

e-mail: shibu_t4771■kym.biglobe.ne.jp

(■を@に置き換えてご使用ください。)

以上